

一般質問

月 日	質問者	質問事項
9月3日 (月)	角 田 恵 一	1 空き家対策について
		2 古民家の活用について
	高 橋 信 広	1 防災・減災対策について
		2 都市計画マスタープランと立地適正化計画及び公共施設等総合管理計画について
	三 角 真 弓	1 将来に向けた財政運営をどのように考えていくのか
		2 31年度に向けた公共交通の在り方について
	樋 口 良 夫	1 鳥獣被害（いのしし）対策について
		2 公立八女総合病院の今後について
9月4日 (火)	大 坪 久美子	1 未婚のひとり親世帯の寡婦控除の適用について
	牛 島 孝 之	1 八女市の小中学校の安全・安心対策は
		2 母子生活支援施設の今後について
		3 農地取得時の下限面積緩和について
	田 中 栄 一	1 集落を流れる河川、俗にいう谷川の災害対策について
	樋 口 安次	1 市道の拡張について
2 トンネルの整備について		
9月5日 (水)	森 茂 生	1 税務行政について
		2 林業、森林について
		3 バイオマス発電について
	石 橋 義 博	1 ふるさと支援寄附金の受付における対応
	橋 本 正 敏	1 八女市の情報発信について
	小 川 栄 一	1 スポーツ振興について
2 公共交通網形成計画について		
9月6日 (木)	萩 尾 洋	1 安心・安全な通学路の確保について
	松 崎 辰 義	1 子どもの通学路の安全確保について
		2 学校給食について
3 「道徳科」について		

現在の空き家、古民家に対する認識及び今後の対応は



角 田 恵 一

答 防災・防犯などの観点から、大変重要な課題である

問 古民家活用について
古民家の実態把握は

ない。
古民家活用については、その事例は、現在まで八女市においては、その事例はない。
古民家活用については、その事例はない。

問 空き家対策等の推進
に関する特別措置法の適用例はあるのか。

答 特定空き家として所有者に勧告した時は、固定資産税の課税標準の特例の対象から除外することになっている。現在まで八女市においては、その事例はない。

問 既存の空き家対策の状況は。

答 再生活用モデル事業、改修等補助金、空き家バンクの施策については一定の効果が上がっている。今後とも継続していきたい。

問 八女市の基準を別途定め空き古民家を含め、建物調査が必要であるので多くの時間を要する。

答 八女市の基準を別途定め、建物調査が必要であるので多くの時間を要する。



専門誌に記載されている八女市の古民家

問 国の制度活用は図れないか。

答 国において、ソフト、ハード面での支援メニューがあるので、活用を検討していきたい。

問 関係団体との連携をどうしていくのか。

答 古民家の利活用に取り組んでいる民間団体（古民家再生協会）と情報交換をしながら、官民連携して調査研究を進めていきたい。

問 ハザードマップを更新する理由と内容は。

答 平成27年5月の水防法改正により、矢部川の洪水浸水想定区域が見直され、今年4月にその区域が公表された。その見直しに準じて、矢部川沿い地域の11地区を更新することとした。

問 ハザードマップの更新に伴い、ICT活用による情報提供は考えているのか。

答 スマートフォンやタブレットで危険箇所や近くの避難所の位置が地図の情報サイトで表示されるなど、情報のウェブ化を計画している。



高 橋 信 広

問 厳しい財政でも防災対策は講じる

答 厳しい財政でも防災対策は講じる

問 タイムライン（事前防災行動計画）を自主防災組織ごとに作成してはどうか。

答 市として、地域で出来る簡単なタイムラインの見本を作つて普及できれば、大変良いと考えている。

問 防災士養成講座のスケジュール及び防災士に期待する役割は。

答 来年1月26日・27日の2日間で開催する。将来は地域の防災リーダーとして活躍できる方をお願いする。

問 公共施設のあり方として、新庁舎建設とともに上陽支所及び星野支所を同時に考えれば、財源的にも軽減できるのではないか。

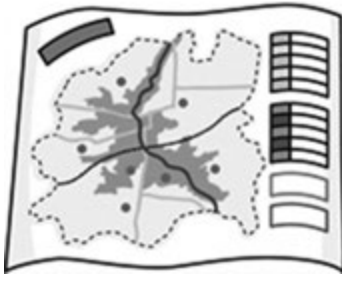
答 それぞれが老朽化を迎えているが、エリア別にマネジメントする必要がある。

問 旧八女市3地区、旧黒木町6地区、光友地区、北山地区である

答 旧八女市3地区、旧黒木町6地区、光友地区、北山地区である

問 来年春に配布する更新ハザードマップは、どの地域のことか

答 旧八女市3地区、旧黒木町6地区、光友地区、北山地区である



ハザードマップ

答 旧八女市3地区、旧黒木町6地区、光友地区、北山地区である

問 来年春に配布する更新ハザードマップは、どの地域のことか

答 旧八女市3地区、旧黒木町6地区、光友地区、北山地区である

問 公共施設のあり方として、新庁舎建設とともに上陽支所及び星野支所を同時に考えれば、財源的にも軽減できるのではないか。

答 それぞれが老朽化を迎えているが、エリア別にマネジメントする必要がある。

問 旧八女市3地区、旧黒木町6地区、光友地区、北山地区である

答 旧八女市3地区、旧黒木町6地区、光友地区、北山地区である

問 来年春に配布する更新ハザードマップは、どの地域のことか

答 旧八女市3地区、旧黒木町6地区、光友地区、北山地区である

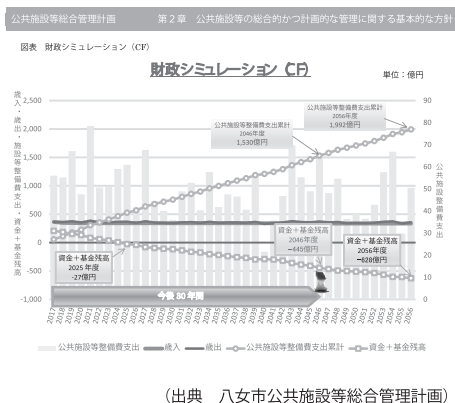
広域合併後8年経過したが公共施設等管理計画の進捗状況はどうか

答 個別施設計画の策定作業を各担当部署で進めている



三角 真弓

- 問** 公共施設の保有量と起債の償還はどうか。
答 平成24年3月31日現在402の施設が現在396となつている。地方債の残高は平成29年度末まで約270億円で、現在所有の全ての公共施設の維持管理費は約17億円余り、償還期間は最長12年間。
- 問** 今後生産年齢人口減少の中で、中部衛生・新庁舎・公立八女総合病院など新たな起債の発生を考慮しての財政運営はどう考えるのか。
答 本市は非常に自主財源比率が低いので依存財源に頼っている。今後30年間、642億円の縮減を目標に進めていく。
- 問** 今後介護保険料や国民健康保険料などの負担増をしないよう納税に對しても全庁的な取り組みや、議員も含め職員の駐車場代等も徴収すべきでは。
答 研究させていただく。
- 問** 平成31年度に向けた公共交通のあり方について。
答 今年度は乗合タクシー3台を小型化されるなど経費の削減等図られているが、乗合タクシーの年々の経費の増加、路線バスの補填を考慮し民生化する方向はないか。
答 現時点では考えていない。

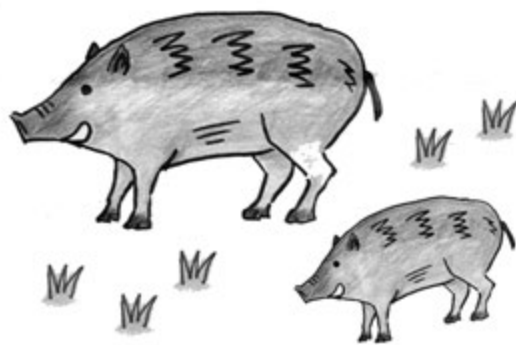


- 問** 昨年度の捕獲数は。
答 2892頭である。
- 問** イノシシの増加による農作物の被害で、離農する人もいる現状の中、猟友会会員数は高齢化等により減少が予想される。今後、市民に免許取得を推進すべきであるが、支援策は。
答 事前予備講習会のテキスト代、資料代等の助成をしている。
- 問** 市民が加工施設を検討する際、八女市新規創業・新事業展開補助制度を活用出来るものか。
答 活用出来る。
- 問** 捕獲したイノシシの処理に困っている現状が



樋口 良夫

- 問** 捕獲の強化策として専門の担当職員や、生熊に詳しい学者や大学・IT技術の活用等市民との協働プロジェクト発足は。
答 肥料化においては、今後勉強していきたい。
- 問** 捕獲の強化策として
答 担当職員の設置は廠会社に働きかける考えは。しい。県と緻密な協議会
- 問** 田畑のギャング イノシシ対策は？
答 担当職員の設置は廠会社に働きかける考えは。しい。県と緻密な協議会



田畑のギャング イノシシ対策は？

答

市単独での建設、運営はリスクが高く、県に要望する。

イノシシの食肉は、ジビエ料理として需要が高いが加工施設の建設は

未婚のひとり親世帯にも、寡婦と同じ適用を実施していただきたい



大 坪 久 美 子

答 保育料などの算定については、みなし適用とする

問 同じひとり親でも、離婚や死別と違って未婚だと福祉サービスの料金や給付額で不利な扱いを受ける状況である。国でも動きがあり、認可保育所などの保育料がみなし適用でサービスが実施されることとなった。八女市は、この適用を実施されるのか。

答 子ども・子育て支援法施行令の改正に伴い、保育料などの算定については、平成30年9月から寡



問 同じひとり親でも、婦控除がみなし適用されることとなる。

問 八女市で未婚のひとり親の家庭は、どれ程おられるか。

答 児童扶養手当の算出では、直近の平成30年7月現在で全受給者608人のうち、未婚のひとり親は61人である。

本市が把握している該当者については、個別に申請書を送付するとともに、広報誌や窓口で制度の周知を図っていく。

本市が把握している該当者については、個別に申請書を送付するとともに、広報誌や窓口で制度の周知を図っていく。



牛 島 孝 之

問 給食室については、同じ環境で仕事ができるようにすべきではないか。

答 一挙にやった方がいいが、財政的な問題があり十分検討させてもらいたい。

問 通学の安全、安心のためにICタグの導入についての考えは。

答 保護者の安心という面では確かに効果があると考えているので、今後も研究をさせていただきたい。

問 母子生活支援施設の今後について

問 入所の決定は誰が行っているのか。

答 最終的な決定権は八女市にある。

問 退所する場合の決まりはどのようなものか。

母子生活支援施設の今後の入所の決定は誰が行っているのか。最終的な決定権は八女市にある。退所する場合の決まりはどのようなものか。

空調設置状況

	普通教室	うち空調整備済	特別教室(フットサル場等除く)	うち空調整備済	給食室	うち空調整備済	備 考
福 島 小	17	17	11	4	1		
長 峰 小	14	14	11	4	1	1	
上 妻 小	14	14	10	4	1	1	
三 河 小	8	8	11	3	1	1	
八 幡 小	8	8	8	3	1	1	
川 崎 小	10	10	9	3	1	1	
岡 山 小	15	15	11	3	1	1	
黒 木 小	14	14	8	5	-	-	黒木学校給食センター
黒 木 西 小	7	7	8	3	-	-	黒木学校給食センター
筑 南 小	9	9	7	2	1		
立 花 小	11	11	9	6	1	1	
矢 部 小	4	4	7	3	1		
星 野 小	6	6	6	3	1		
小 学 校 計	144	144	126	49	12	7	
福 島 中	12	12	19	3	1	1	
南 中	8	8	16	5	1		
見 崎 中	7	7	12	4	1		
西 中	9	9	11	3	1	1	
黒 木 中	7	7	18	3	1	1	黒木学校給食センター
筑 南 中	6	6	14	6	1		
立 花 中	6	6	12	5	1	1	
矢 部 中	1	1	15	13	1	1	
星 野 中	4	4	10	4	1		
中 学 校 計	60	60	127	46	9	5	
上陽北学園(小)	5	5	2	2			
上陽北学園(中)	5	5	11	4	1	1	
義務教育学校計	10	10	13	6	1	1	
小中合計(室数)	214	214	266	101	22	13	※黒木学校給食センターは黒木中に算入

答 特別教室及び給食室のエアコン設置について八女市の考えは文科省の補助金の状況を見ながら検討していく

問 あり方検討委員会の答申に対してどのような

答 18歳までの児童であるが、大学生についても同じように児童という形で判断して入所を希望する母子家庭にとって一番良いのかを検討していきたい。

問 検討がされたのか。

答 結論を出すのが多少遅れているが、どういった向が入所を希望する母子家庭にとって一番良いのかを検討していきたい。

近年の異常豪雨に対する山間集落 河川の災害予防と対策をどう考える



田 中 栄 一

答 治山・砂防施設、林道等の点検・維持・管理に努めている



土石により通行止めとなったR442号

問 砂防ダムの維持管理はどうしているか。
答 地域の情報により、流木や堆積土砂の搬出などを県に要望している。
問 設置個所を把握し、定期的に点検する必要があるのではないか。
答 現在把握していない。今後、県と協議を進め把握に努めたい。

問 危険度の高い地域への砂防ダム設置の考えは。必要に応じて、県と協議すべきか。
答 必要に応じて、県と協議すべきか。
問 側溝管理が不可欠だが、予算増額の考えは。
答 予算の範囲内で優先順位により効率的に実施したい。
問 伐採地の広葉樹林転換を進めるべきではないか。
答 所有者の意向があるが、経済林と並行して広葉樹林や複層林への取り組みを進めたい。

問 集落の谷川の災害復旧はどうしているか。
答 護岸が1m未満の谷川は公共土木施設災害復旧事業に該当しない。必要に応じて単独事業や農業用施設等災害復旧事業で対応している。
問 市管理林道は側溝などを定期点検すべきではないか。
答 梅雨前や大雨後に点検し、法面の伐採、排水施設の土砂撤去、落石除去などを予算の範囲内で実施している。

問 市道の拡張について。酒井田地区の道路を4メートルに拡張することについてどうなっているのか。
答 道路改良工事について、地元等の要望を受け、現状把握・施工判断・調査測量・予算措置・事業実施という流れで進めている。また、拡幅の際、道路用地及び補償物件についても地元関係者の同意と協力が不可欠であると考えている。



樋 口 安 癸 次

問 トンネルの整備について。白木・和水町間の1700メートルのトンネルはどうなっているのか。
答 本路線の整備については、本市と和水町で構成する玉名八女線道路整備促進期成会を通じて、福岡・熊本両県に要望活動を行うとともに、期成会



トンネル整備の推進看板

答 国及び福岡・熊本両県への要望活動に努める
 白木地区と熊本県和水町間のトンネルはどうなっているのか

事業としての相互のイベントに参加し、交流を行っている。
 本市としては、今後ともトンネル整備とあわせ、前後の道路改良の早期着工に向け、国及び福岡・熊本両県へさらなる要望活動に努めていく。

森林管理法とワンセットで森林環境税が導入されている。その内容は



森 茂 生

答 住民税均等割りとして、国民1人当たり年額千円徴収する

問 税務行政について

平成29年度差押件数640件で、その内、預貯金の差押が377件行なわれている。差押禁止の基準は1人世帯で、月10万円となっている。以前5万円程度の預金で全額が差押されているが、違法な差押ではないか。

答 差押することは厳しいと感じている。

問 林業、森林について

今度の森林管理法は、非常に強権的な内容になっている。森林所有者の管理責任を定め、管理できない場合は市に管理を委託させるが、委託に



同意しない所有者には手続きを取れば委託したものとみなし、木を伐採できる。所有者不明の山林は公告し6ヶ月以内に異議がなければ市が管理できる。この管理権は最大5年間続くが、どの様に認識しているか。

答 意欲の低い森林経営者は、市が意欲のある人につなげ、荒廃森林は市が管理する。

問 バイオマス発電について

バイオマス発電所の進捗状況は。

答 今後造成費用など算出し採算性を検証予定。

問 商工会や商工会議所との交流懇談会において、八女市の取り組みが十分でないという声があったが。

答 返礼品の事業者を訪ねて色々話をしている。その中には商工会議所も含まれている。

問 課長以下現場は対応しているが、部長もしくは担当副市長に対する不満の表れではないか。

答 幅広く市内の事業者に募集する方向で検討を行い、ふるさと支援寄附の仕組みの詳細な説明を協力業者を募集し、商品提案してもらいながら、品物の充実を図っている。



石 橋 義 博

ふるさと支援寄附金の受付における対応は

答

市のホームページなどで募集、登録業者とは勉強会等を開催し取り組んでいる



返礼品カタログ

今後、更に協力業者の拡大に努め協議を行いながら返礼品の充実に取り組んでいく。

問 建設経済委員会による総務省での研修において、ふるさと支援寄附金の仕組みの詳細な説明を受け、市民の所得向上が図れるように努力している。

答 今後も門戸を開いて進めていきたい。

多忙な方への対応として、就業時間外の問い合わせはどうしているか

答 ホームページ最下部に、問い合わせ等のフォームがある



橋 本 正 敏

問 LINE、フェイスブック等SNSの活用は。現在、子育て支援課、こども未来係のLINE @がある。他市の状況など、これからも研究していく。

答 LINE、フェイスブック等SNSの活用は。A等と上映を協議している。資金としてのふるさと納税の基金活用については、担当課と協議していく。観光としては、バスツアー等が成り立つか研究が必要。

問 観光地には、無料で高速通信のWi-Fiの設置が必要ではないか。

答 費用対効果を考慮し、できる限り積極的に設置するようにする。

問 映画「野球部員、演劇の舞台に立つ」の今後

の利活用は。



映画「野球部員、演劇の舞台に立つ」のワンシーン



小 川 栄 一

問 「市民ひとりスポーツ」とはどのような意味か。

答 競技スポーツに限らず健康づくりのために毎日習慣としてもらう運動や体操も含めたところで「1スポーツ」である。

問 現在の実施状況は。

答 チャレンジデーをはじめグラウンドゴルフ大会、更に、今年は障がいのある方をはじめとして、誰もが参加できるスポーツ体験イベントのアダプト・プラススポーツ交流会開催の予定がある。

問 体育施設の統廃合と建て替えの時期では。

答 本年度、八女市体育施設等管理計画策定委員会を立ち上げ、取りまとめる。

問 最近県内60市町村対抗駅伝大会で八女市のチームが8位というすばらしい成績を挙げられたが練習場に困ったと聞く。

答 陸上競技場新設計画は、望も県と協議したが、市民の公園としてよい環境が出来あがっているのでは、今は考えにくい。

問 まだ考えの段階でお話できないが、新たな計画が念頭にある。なんとか実現できないかと思つて

いる。



八女市総合体育館

答

平成28年度からチャレンジデー事業に取り組んでいる

「市民ひとりスポーツをめざす」都市宣言の具体的な施策は何か

安心・安全な通学路を実現するためのポイントは



萩尾 洋

答 各機関との連携を図り、情報を共有しながら推進していく



問 警察や道路管理者との連携協議は、どのような形で、年に何回行っているのか。

答 各関係機関で構成する八女通学路安全推進協議会というものを設け、年に1回開催している。

問 要望、あるいは危険箇所に対する改善策施行後の検証は随時実施しているのか。

答 要望箇所については、過去2年間で具体的に施したのが40カ所で3割程度。その他は、様々な規制・条件があるので、継続課題として各関係機関へ働きかけをしている。

問 今後の安心・安全確保のための施策をどのように進めていくのか。

答 本年6月に、国の登下校時の子どもの安全確保に関する登下校防犯プランで示される各施策の内容を踏まえながら、社会全体で子どもの安全を守る取り組みを推進していく。

問 遠距離通学児童に対し、登校時だけでもスクールバスを運行できないか。地域繁栄にも効果があると思うが。

答 交通安全対策の観点からスクールバス運用は、現段階では難しいと考えている。

問 将来の八女市を担う子ども達が、安全で安心して通学できる状況を早期につくっていただきたい。

答 調査については、専門知識も必要だと思うが、県と八女県土整備事務所等の協力をお願いしている。

問 危険ブロック塀の撤去やフェンス等の新設に補助制度の創設がなされたと聞いているが。

答 県の9月議会に予算が上程されており、結果を待つ対応したい。



松崎 辰義

問 調査については、専門知識も必要だと思うが、

答 県と八女県土整備事務所等の協力をお願いしている。

問 危険ブロック塀の撤去やフェンス等の新設に補助制度の創設がなされたと聞いているが。

答 県の9月議会に予算が上程されており、結果を待つ対応したい。

問 各区長とも連携し、対応する必要があるのではないかと。

答 個人情報保護もあるので慎重におこない、何らかの形で共有を図りたい。

問 給食費の第2子・第3子についての無償化の

効果など総合的に検討し

指定通学路における危険ブロック塀の調査と対策はどうなっているのか

答

調査結果を取りまとめて関係機関と連携し対応をする



地震によって崩壊したブロック塀 (八女市外)

問 検討はもうなっているか。なければならぬので、まだ結論には至っていない。

答 第2子以降を対象とした場合8000万円を超える予算が必要。第3子のみ対象にした場合は1400万円を超える予算が必要となる。

財政的な問題と費用対効果など総合的に検討し